

## (3)社会実装に向けた 課題と今後の方向性について

---

道の駅「コスモール大樹」を拠点とした  
自動運転サービス  
地域実験協議会 事務局

## ○社会実装に向けた課題について

	社会実装に向けた課題
サービス ネットワーク	<input type="checkbox"/> サービスに対するニーズは市街地が多い
	<input type="checkbox"/> 市街地と生産空間で異なる需要や移送距離に対応した、複数の自動運転レベルによるサービスの検討が必要(導入する地域、ルート of 精査が必要)
	<input type="checkbox"/> 生産空間の機能維持、JR問題を考慮すると、圏域中心都市と生産空間を結ぶ広域交通ネットワークで検討することが重要
安全確保	<input type="checkbox"/> 今の技術ではレベル4で走行するには専用空間が必要
地域	<input type="checkbox"/> 自動運転に対する町民の反応も総じて良かった。ただ、実験期間が短く、町民の認知は限定的(乗りたくても乗れない人が多かった、なんとなく不安という声がいまだに存在) <input type="checkbox"/> 地域が主体となって取り組むには、受入機運の醸成がもう少し必要
役割分担 費用分担	<input type="checkbox"/> 住民に加え、地元事業者の気運醸成も同様に重要。 <input type="checkbox"/> 社会実装するには、事業者に参加してもらい、効果の実感・リスク課題の共有が必要
	<input type="checkbox"/> 採算性を確保できるサービス設計が必要 <input type="checkbox"/> 事業者に参加してもらい、コスト・費用の把握が必要
その他	<input type="checkbox"/> 自動運転サービス導入を想定した道路設計指針の見直しもありうる <input type="checkbox"/> 道の駅、高規格道路ICの交通結節機能の確保のあり方検討もあわせて必要となりうる